

県内全ての居住エリアの浸水リスクを一目で表示 「中小河川の洪水浸水想定区域」の指定・公表について

令和8年3月31日に県管理の中小河川(443河川)の洪水浸水想定区域を新たに指定・公表します。県内全ての居住エリアの身近な水害リスクを一目で確認することができます。

背景

令和3年の水防法改正により、国が定める想定最大規模(1000年確率以上)の降雨について、住宅等の防護対象がある中小河川について洪水浸水想定区域の指定が義務化されました。県では、これまで日野川、姉川・高時川等の主要15河川において、想定最大規模の洪水浸水想定区域図を公表してきました。

このたび、新たに県内中小河川(443河川)を指定し、滋賀県全ての居住エリアにおける水害リスクを示し、洪水浸水想定区域図を公表いたします。

中小河川の洪水浸水想定区域図の特徴

●県内全ての居住エリアの浸水深を表示

- ・身近な水路等のリスクを含めた、
1000年確率以上の浸水リスクを公表

●多段階の浸水リスクを公表

- ・地先の安全度マップでの10~200年確率の雨に加え、想定し得る最大規模(1000年以上)の浸水リスクを公表
- 避難計画や土地利用等、幅広く活用が可能！

	地先の安全度マップ			洪水浸水想定区域図
確率年	10年	100年	200年	1000年以上
雨量	最大50mm/hr	最大109mm/hr	最大131mm/hr	河川流域ごとに設定
活用例	・まちづくり計画 ・早い段階での水平避難	・避難経路	・避難経路 ・建築規制	・最大浸水リスクを把握

